

FIPS が有効になっている場合に暗号化アルゴリズムがサポートされないという AnyConnect クライアントからの苦情

目次

[概要](#)

[背景説明](#)

[問題](#)

[解決策](#)

概要

このドキュメントでは、ユーザが連邦情報処理標準 (FIPS) 対応クライアントを使用して適応型セキュリティ アプライアンス (ASA) (そのアプライアンスには、FIPS 対応暗号化アルゴリズムをサポートするポリシーが含まれている) に接続できない場合がある理由について説明しています。

背景説明

インターネット キー エクスチェンジ バージョン 2 (IKEv2) 接続のセットアップ時に、発信側はピアによって受け入れ可能なプロポーザルを認識していることはないため、発信側は最初の IKE メッセージが送信されたときに、使用する Diffie-Hellman (DH) グループを推測する必要があります。この推測に使用される DH グループは、通常、設定された DH グループのリストの最初の DH グループです。発信側では推測したグループのキー データを計算しますが、ピアにすべてのグループの完全なリストも送信します。これにより、ピアではその推測したグループが誤っている場合に、別の DH グループを選択できます。

クライアントの場合、ユーザ設定の IKE ポリシーのリストはありません。代わりに、クライアントでサポートされる事前設定されたポリシーのリストがあります。このため、誤っている可能性のあるグループが含まれた最初のメッセージのキー データを計算する際にクライアント側での計算の負荷を減らすため、DH グループのリストは最も弱いものから最も強いものの順に並べられています。したがって、クライアントでは最初の推測に計算負荷が最も低い DH と、最もリソースを消費しないグループを選択しますが、後続のメッセージではヘッドエンドによって選択されたグループに切り替えます。

注: この動作は、DH グループが最も強いものから最も弱いものの順に並べられる AnyConnect バージョン 3.0 クライアントとは異なります。

ただし、ヘッドエンド上では、ゲートウェイに設定された DH グループに一致する、クライアントによって送信されたリスト上の最初の DH グループが、選択されるグループです。このため、

ASAにより弱い DH グループも設定されている場合、両端のより安全性の高い DH グループを利用できるにもかかわらず、クライアントでサポートされ、ヘッドエンド上に設定されている最も弱い DH グループが ASA によって使用されます。

この動作は、Cisco Bug ID [CSCub92935](#) によってクライアント上で修正されました。このバグの修正が適用されたすべてのバージョンのクライアントでは、DH グループがヘッドエンドに送信される際に、DH グループがリストされる順番が逆になります。ただし、非 Suite B のゲートウェイとの後方互換性の問題を避けるために、最も弱い DH グループ (非 FIPS モードの場合は 1 つ、FIPS モードの場合は 2 つ) がリストの先頭に残ります。

注: リストの最初のエントリ (グループ 1 またはグループ 2) の後に、他のグループが最も強いものから最も弱いものの順にリストされます。これにより、楕円曲線グループが最初に (21、20、19) 配置され、その後に Modular Exponential (MODP) グループ (24、14、5、2) が続きます。

ヒント: ゲートウェイが同じポリシーで複数の DH グループで設定され、グループ 1 (または FIPS モードの場合、グループ 2) が含まれている場合は、ASA ではより弱いグループを受け入れます。修正では、ゲートウェイに設定されているポリシーに DH グループ 1 だけを含めます。複数のグループを 1 つのポリシーに設定するが、グループ 1 を含めない場合、最も強いグループが選択されます。次に、例を示します。

- ASA バージョン 9.0 (Suite B) 上で IKEv2 ポリシーが 1 2 5 14 24 19 20 21 に設定されている場合、予期したとおりに**グループ 1 が選択されます**。

- ASA バージョン 9.0 (Suite B) 上で IKEv2 ポリシーが 2 5 14 24 19 20 21 に設定されている場合、予期したとおりに**グループ 21 が選択されます**。

- クライアントが FIPS モードで、ASA バージョン 9.0 (Suite B) 上で IKEv2 ポリシーが 1 2 5 14 24 19 20 21 に設定されている場合、予期したとおりに**グループ 2 が選択されます**。

- テストされるクライアントが FIPS モードで、ASA バージョン 9.0 (Suite B) 上で IKEv2 ポリシーが 5 14 24 19 20 21 に設定されている場合、予期したとおりに**グループ 21 が選択されます**。

- ASA バージョン 8.4.4 (非 Suite B) 上で IKEv2 ポリシーが 1 2 5 14 に設定されている場合、予期したとおりに**グループ 1 が選択されます**。

- ASA バージョン 8.4.4 (非 Suite B) 上で IKEv2 ポリシーが 2 5 14 に設定されている場合、予期したとおりに**グループ 14 が選択されます**。

問題

ASA が、以下の IKEv2 ポリシーで設定されています。

```
crypto ikev2 policy 1
encryption aes-gcm-256
integrity null
group 20
prf sha384 sha
```

```
lifetime seconds 86400
crypto ikev2 policy 10
encryption aes-192
integrity sha
group 5 2
prf sha
lifetime seconds 86400
crypto ikev2 policy 20
encryption aes
integrity sha
group 5 2
prf sha
lifetime seconds 86400
```

この設定では、すべての FIPS 対応暗号化アルゴリズムをサポートするために、ポリシー 1 が明確に設定されています。しかし、ユーザが FIPS 対応クライアントから接続しようとする、次のエラーメッセージが表示されて接続が失敗します。

The cryptographic algorithms required by the secure gateway do not match those supported by AnyConnect. Please contact your network administrator.

一方、管理者がポリシー 1 で DH グループ 20 ではなく、DH グループ 2 を使用するように変更すると、この接続は機能します。

解決策

症状に基づくと、最初の推論は、FIPS が有効になっていて他に何も動作していない場合はクライアントで DH グループ 2 しかサポートしていないということになります。これは、実際には正しくありません。ASA 上で次の debug を有効にすると、クライアントから送信されたプロポーザルを確認できます。

```
debug crypto ikev2 proto 127
```

接続の試行中、最初の debug のメッセージは次のとおりです。

```
debug crypto ikev2 proto 127
```

したがって、クライアントがグループ 2、21、20、19、24、14 および 5 (これらの FIPS 準拠グループ) を送信したという事実にもかかわらず、ヘッドエンドでは依然として以前の設定のポリシー 1 で有効なグループ 2 のみに接続しているだけです。この問題は、debug のメッセージをさらに確認していくと明らかになります。

```
IKEv2 received all requested SPIs from CTM to respond to a tunnel request.
IKEv2-PROTO-5: (64): SM Trace-> SA: I_SPI=74572B8D1BEC5873 R_SPI=E4160C492A824B5F
(R) MsgID = 00000006 CurState: R_VERIFY_AUTH Event: EV_OK_REC'D_IPSEC_RESP
IKEv2-PROTO-2: (64): Processing IKE_AUTH message
IKEv2-PROTO-1: Tunnel Rejected: Selected IKEv2 encryption algorithm (AES-CBC-192)
is not strong enough to secure proposed IPsec encryption algorithm (AES-GCM-256).
IKEv2-PROTO-1: (64): Failed to find a matching policy
IKEv2-PROTO-1: (64): Received Policies:
ESP: Proposal 1: AES-GCM-256 AES-GCM-192 AES-GCM-128 None Don't use ESN

ESP: Proposal 2: AES-CBC-256 AES-CBC-192 AES-CBC-128 3DES SHA512 SHA384 SHA256 SHA96
Don't use ESN

IKEv2-PROTO-1: (64): Failed to find a matching policy
IKEv2-PROTO-1: (64): Expected Policies:
ESP: Proposal 0: AES-GCM-256 SHA384 Don't use ESN

IKEv2-PROTO-5: (64): Failed to verify the proposed policies
```

IKEv2-PROTO-1: (64): Failed to find a matching policy

この接続の失敗は、次の要素の組み合わせに起因します。

1. FIPS を有効にすると、クライアントでは特定のポリシーを送信するだけで、それらは一致する必要があります。それらのポリシーのうち、クライアントではキー サイズが 256 以上の Advanced Encryption Standard (AES) 暗号化だけを提示します。
2. ASA は複数の IKEv2 ポリシーで設定され、その内の 2 つでグループ 2 が有効にされています。上述のように、このシナリオではグループ 2 が有効にされているポリシーが接続に使用されます。ただし、これらのポリシーのどちらの暗号化アルゴリズムでも、FIPS 対応クライアントには低すぎるキー サイズの 192 が使用されます。

したがって、この場合、ASA とクライアントはこの設定に従って動作します。FIPS 対応クライアントに対して、この問題を回避する方法は、次の 3 つがあります。

1. 必要なプロポーザルだけを保持する 1 つのポリシーのみを設定します。
2. 複数のプロポーザルが必要な場合は、グループ 2 を保持するポリシーを設定しません。このようなポリシーを設定すると、そのポリシーが常に選択されます。
3. グループ 2 を有効にする必要がある場合は、そのグループに適切な暗号化アルゴリズム (AES-256 または AES-GCM-256) が設定されるようにしてください。